



たんぽぽ

大震災 がんばろう東日本

全国民の力で復興を

笑顔を取り戻す支援を

2011年度
3月議会

市議団の一貫した追及で実現

学校プール安全管理補助員復活

(新名称・安全安心支援員)



新都心コープ前で義援金募金活動 那覇市議団



組み換え動議に賛成討論する
我如古一郎市議

学童クラブ家賃補助実施へ

幼稚園教諭正職員化へ

待機児童918人・・・認可園を増やせ

生活保護費の全額国庫負担を求める意見書採択

市長提案予算に民主・社民・社大・そうぞう賛成
討論なし・・・問われる野党の存在意義

予算組み替え動議提案

予算組み替え動議の主旨

二〇一一年度那覇市一般会計予算案」についての、日本共産党の組み替えを求める動議に賛成し、原案に反対する立場から討論を行います。

民主党政権は、旧自公政権の「構造改革」を継続し、社会保障の負担増や増税による生活破壊を改める抜本的対策を図らず、地方分権の名で地方切捨てを進めています。地方自治体の使命は「住民の福祉を守ること」であり、自治体は国の下請け機関であってはならないと思います。

格差と貧困が広がり、物を買う力を無くしている、市民の生活を立て直す努力が、本市の予算には求められています。

二〇一一年度の予算には、日本共産党が求めてきた、プール安全管理補助員の事業が「学校安全・安心支援員」として復活し、子宮頸がんワクチンなどの公費助成、発達障害の問題に対応する予算、学童クラブの学校内整備や家賃補助、幼稚園教諭の正職員化、市営住宅の建替え推進などの予算も含まれており、私たちはこのような予算に反対をするものではありません。本日の議案35件のうち、32件には賛成しています。

しかしながら、全体として新年度予算は、暮らしを改善し、市民の要求を実現する予算編成になっておらず、経済不況や雇用の改善のための積極的な独自の経済対策も乏しい内容であります。

「保育所への待機児童解消」に対する、子育て世代の切実な願いに込める予算編成になっておりません。

入園式が目前に来ている今、三月一日時点での那覇市の保育所待機児童数は、九一八人です。

今年度も市立鏡原保育所の払下げが行われます。公立保育所の廃止を中止して、認可保育園を増やすことを求めます。

二〇一一年度一般会計予算では、公益性が監査からも指摘されている、民間企業が行う「モノレール旭橋駅周辺再開発事業」に、借金をしてまで、合計で2億5千203万4千円の市民の税金をこの事業に使おうとしています。このような税金のムダ使いはあらためるべきです。

また、市民サービスを削って莫大な決算剰余金を生み出し、積み立ててきた、いわゆる財政調整基金や減債基金は、両方の基金の新年度残高見込み額は五億円もあります。

また、那覇市は、この4年間でいままでもなかった、施設整備基金・子育て基金・マチグワ―活性化支援基金・市営住宅建替え基金・環境保全基金など新たな基金を作っており、その総額は残高19億7000万円にも達し、以前と比べて、財政が厳しい状態でないことは明らかです。

たとえば、高齢者や障害者の福祉を向上させること、療育センターの施設及び人員の充実を図ること。一人親家庭への支援を強化すること。義務教育の保護者負担の軽減を図ること。中小零細企業の仕事を作り、経済波及効果の大きい、住宅リフォーム助成制度の創設、中小企業振興基本条例の具体化の促進を図ること、学童保育の充実を図ること、生活保護行政の正職員を増やすこと、など

収入の低下と長引く不況による観光産業と市経済の停滞に鑑み、暮らしと福祉、教育・雇用・経済活性化対策等の予算へと組み替えることを求めます。

3月議会個人質問

新真地交差点のバス停を屋根付に 渋滞解消も

県道222号線バイパスの開通に伴ういくつかの弊害の改善について質問します。

●新真地交差点から識名に向かう側道から222号線バス路線の本道に合流する地点が夜は真つ暗であり交通安全の観点から街灯の設置が望まれています。対応を問うものです。

●逆側の側道から、バイパスに合流する地点が朝夕は左折の車で渋滞し、側道からの合流が困難になっています。新真地交差点の信号に左折矢印信号をつけるなど、渋滞緩和を求める声があります。

街灯やベンチの整備も

また、バイパス開通に伴い真和志高前バス停が移動になり、新真地交差点に新バス停が設置されたが、付近に雨風をしのぐ場が全くないため、屋根付きのバス停が必要と思います。対応と見解を問うものです。

屋根つきバス停は、必要性を認め、新年度予算での設置というのですが、一刻も早い設置が求められます。

聴覚障害者のバリアフリー

●聴覚障害者や難聴の方でも、集会所や公民館などで音楽や演劇、講演などに親しめるよう補聴システムを導入すべきではないか。

●新しい市役所庁舎の本会議場の傍聴席にこのシステムを導入すべきではないか。

先駆的な取り組みで、現在の市民会館にも導入されていることを、高く評価します。ただ、あまり使われていないというのは、周知宣伝が不足ではないかと思えます。

これからも、公共施設を始め、民間のホールにもバリアフリーの推進を図っていただきたいと思えます。

新真地交差点のバス停は屋根がなく 急な雨に逃げ場がありません



昨年十二月の寒い日に、このバス停に十五名ほどの高校生と市民が待つていたときに、突然、にわか雨が降りだしました。逃げ場のない状況で、全員が雨に打たれて、ずぶ濡れになっている場面は、気の毒で正視できませんでした。バス離れが言われて久しい時に、このような目にあつたら、だれもバスに乗らない風潮を作ってしまう。また、風よけの壁やベンチがあれば、さらなる弱者に優しいバス停になることも、申し添えておきたいと思えます。



真地橋の街灯の設置を要求

街なか居住促進を！

泉崎・牧志・久茂地・前島・壺屋など那覇市の中心地で、少子高齢化の人口減少が顕著で、街の賑わいが失われつつあります。

今、「買い物難民」と「高齢者の孤独死」が問題になっています。少子高齢化と地域コミュニティの弱体化、核家族化と独居高齢者の増加、貧困の拡大、人口減少による身近な商店の閉店やスーパーの撤退など、高齢者にとって生活しづらい地域は、子育てにも影響しています。

そのような中で久茂地小学校の統廃合が提起され、地域住民の反発も起きています。中心市街地の人口はどのようになっているか。また本市は中心市街地の空洞化にどのような対策を行っているのか。見解を求めます。中心市街地が置き去りになっています。

少子高齢化・核家族化の進行で、中心市街地の高齢化は急激に進み、人口の減少が様々な都市機能の活力を失わせ、大きな社会問題になっています。

答弁では、市全体の人口が平成5年から平成19年には3%増加しているのに対し、中心市街地はマイナス16%、3649人も減少しています。

(仮称)識名公園計画について

●ワークシヨップでの意見交換の状況とパークゴルフ場を求める声もあるが、検討の中にはいつているか。

●公園や市民体育館へのアクセス道路を整備する必要があると思えます。市民体育館前の信号がイベントや大会などがあると大渋滞するなど、環状2号線の往来にも支障をきたしています。利用しやすい施設・公園にするためにも総合的な交通誘導策が必要ではないか。見解を問います。

●識名東線の市民体育館横の地点は、かなり狭くなっているが、拡張すべきではないでしょうか。

答弁 公園内の遊歩道の拡幅という形で、道路の安全が図られるよう検討したい。また、環状2号線の拡幅が図られるということなので、渋滞緩和も期待されています。

久茂地小統廃合は中止せよ

街なか居住促進で、建設管理部が策定している「那覇市住生活基本計画」の具体化や中心商店街にも関わる、中小企業振興基本条例の具体化などは、都市計画部も参加した、総合的な対策室を立ち上げるくらいの、全庁的な位置づけが必要です。

沖縄市で新年度から事業化される、子育て世帯への家賃補助や住宅リフォーム助成は、中心市街地への居住促進を図る有効な政策であると評価しています。そのような具体的な政策を早く打ち出して、街の空洞化を改善することが求められています。



市民体育館前の道路は狭く、危険



仮称・識名公園計画の全景